

故障と処理

故障症状	考えられる原因	処 理
ジャッキが上昇しない	・リバースバルブがしっかり締まっていない。 ・許容荷重をオーバー。	・リバースバルブをしっかり締める。 ・重量を減らす。
上昇後、ジャッキが下がってしまう	・リバースバルブがしっかり締まっていない。 ・許容荷重をオーバー。 ・パワーユニットの故障。	・リバースバルブをしっかり締める。 ・重量を減らす。
重量物をおろしてからでもジャッキが下がらない	・過剰給油。 ・異物が混入。また、可動部の動きが悪い。	・適当な量まで減らす。 ・きれいにする。または、可動部に潤滑油を差す。
上昇する力が弱い	・給油不足 ・空気が入っている。	・適切な量まで給油する。 ・空気抜き作業を行う。
最上位まで上昇しない	・給油不足	・適切な量まで給油する。

仕 様

注文コード	許容荷重 (kg)	ジャッキ寸法 (L × W)	最低高度 (mm)	最高高度 (mm)	揚程 (mm)	調整ネジ (mm)	受金直径 (φmm)	ハンドル長 (mm)	質量 (kg)
19807962	2000	88 × 93	181	345	164	48	20	170	2.9
19807978	4000	90 × 100	194	372	178	60	25	170	3.3
19807987	6000	97 × 112	216	413	197	70	30	215	4.5

保証期間

保証期間は、本製品のお買い上げ日より1年間とする。保証期間中に、本説明書に従った正常な使用状態で故障（不良）した場合、下記お問合せ先へご相談ください。ただし、保証期間内でも下記の場合は保証の対象になりません。

- 1、誤った使い方、改造による故障
- 2、災害（地震、火災など）、公害による故障
- 3、乱暴な使用・運送による故障

取扱説明書

モノタロウ ボトルジャッキ 油圧式

このたびは、ボトルジャッキ 油圧式をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。

注文コード:19807962
19807978
19807987

安全にお使いいただくために

この取扱説明書はお読みにになった後もお使いになる方がいつでも確認できる場所に大切に保管してください。用途以外でのご使用、またこの取扱説明書に明記された内容を守らなかった場合に起きた事故・故障・修理その他の不具合についての責任は一切負いかねますので、ご了承ください。

⚠ 警告

この表示内容を見逃して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が切迫して想定される内容をしめています。

⚠ 注意

この表示内容を見逃して誤った使い方をした場合は人的傷害や製品の破損、その他の物的損害へつながる可能性があります。

⚠ 警告 説明書について

- ・本製品を安全に正しく使用していただくために、使用前に必ず本説明書をお読みいただき、十分に理解してください。
- ・本製品の所有者または使用者は、使用前に、この製品とその安全操作手順を熟知しておいてください。
- ・本製品の所有者または使用者は、本製品に関連するスキルと知識を持たなければなりません。
- ・ジャッキの安全・正確な使用方法に少しでも疑問を感じた場合、直ちに使用を中止してください。

⚠ 警告 使用前の点検

- ・ジャッキに異常箇所（破裂、凹み、ヒビ、油漏れ、ラベル不良）があった時は、そのまま使用しないでください。
- ・不具合（誤操作、部品紛失）などが生じた時は、直ちに使用中止してください。

⚠ 警告 製品の説明

- ・本製品は、重量物を上げる器具であり、重量物の支持、固定に使用しないでください。ジャッキアップ後、作業を開始する前に必ずジャッキスタンドで確実に支持してください。
- ・本製品は、縦型使用のみに設計されておりますので、横方向で使用しないでください。
- ・本製品を改造して使用しないでください。

⚠ 警告 使用前の準備

- 1.使用前に、取扱説明書をよく理解し、製品の構造、特徴、部品などに対し熟知しておいてください。また、誤使用による危険も認識してください。
- 2.使用前に、製品に異常がないか点検を行ってください。異常を発見した場合、使用しないでください。
- 3.付属ハンドルの型押ししてある端で完全に締まった状態のリバースバルブを反時計回り方向に1/2回転させ、緩めてください。
- 4.受金が最低位に下がった状態で、注油キャップを外してください。ハンドルをハンドルスリーブに差込み、6～8 回上下に動かします。こうすることによって、シリンダー内の空気が抜けます。また、油量は注油口の下にあるかを確認してください。注油キャップを元に戻してください。
- 5.作業を開治する前に、ポンプの作動が正常かどうかを確認してください。正常と確認出来ないときは、使用をしないでください。
- 6.必要に応じて、潤滑油を補充してください。(保守・点検を参考)

！ 警 告

- ・説明書と警告事項をよく読んで理解してください。
- ・許容荷重を超えた荷重では使用しないでください。
- ・重量物を上げる器具であり、重量物の支持、固定に使用しないでください。上昇後、必ず定格ジャッキスタンドで確実に支持してください。
- ・ジャッキを上げた状態で、重量物の上、下または近くで絶対に作業しないでください。
- ・ジャッキの設置は、強固で平らな所に置いてください。
- ・この製品で重量物を移動したりしないでください。
- ・ジャッキ以外の用途で使用しないでください。

！ 注 意

- ・下げる前に、重量物の下や周囲に人がいないか、ジャッキスタンド以外の物がないかを必ず確認してください。
- ・本製品を改造しないでください。
- ・自動車で使用する場合、製造メーカーが提供する部品、付属品以外の物は使わないでください。
- ・ジャッキの受金を自動車メーカーの指定する位置に垂直に当てるようにしてください。（自動車の取扱説明書をご参考ください）

各部の名称



※給油キャップを再度はめ込む際は、マイナスドライバー等を用いて押し込むとスムーズにはめ込むことができます。

！ 警 告

- ・セーフティバルブには触れず、絶対に操作しないでください。セーフティバルブの操作は重大な事故の原因となり非常に危険です。

取扱い方法

ジャッキを上げる時

1. リバースバルブにハンドル先端（U切欠き部）を差込み、時計回りにして確実にバルブを閉じてください。（バルブを締め過ぎると故障の原因になりますので絞め過ぎないように注意してください）
2. ハンドルスリーブにハンドルを差込み、ポンプを上下方向に作動させてください。

ジャッキを下げる時

！ 注 意

リバースバルブはゆっくり回してください。早く回すと重量物は急激に下降し、ジャッキポイントが外れたり、またジャッキが破損する場合があります、重大な事故につながります。

1. リバースバルブにハンドル先端（U切欠き部）を差込み、反時計回りにゆっくり回してバルブを開けてください。（2回転以上は回さないでください）
2. 荷重が加わっていない時は、受金は自重で降下しますので、手で押すか、あるいは適当な荷重を加えて下げてください。
3. 作業が終了したらジャッキに付着したゴミ、オイルなどをきれいにふき取ってください。受金を最低位まで下げてから所定の場所へ保管してください。

！ 注 意

ラベルが汚れて見えなくなったり、ジャッキ本体に異常が発見された場合、直ちにモノタロウまでご連絡ください。

！ 注 意

自動車用として使用する場合

- 1.** 車輻に付属されている取扱説明書をよく読んでジャッキをご使用ください。
- 2.** 車の車種および重量に適したジャッキをご使用ください。
- 3.** 駐車ブレーキをかけてください。
- 4.** オートマチック車の場合は、「P」に、マニュアル車の場合は、「ロー」または、「バック」にギヤを入れてください。
- 5.** 交換するタイヤの反対側の前後車輪にタイヤストッパーをセットしてください。
- 6.** ジャッキアップの際、車の決められた位置にジャッキの受金部の中心が垂直に当たるようにしてください。
- 7.** ジャッキアップは必要以上に高くしないでください。
- 8.** ジャッキ使用中は絶対に車の下に入らないでください。車の下に入る場合は必ずリジッドラックなどの保持台で車を保持してください。
- 9.** ジャッキ使用中は車には力を加えないでください。

保守・点検

重要：一年毎の点検をお勧めします。

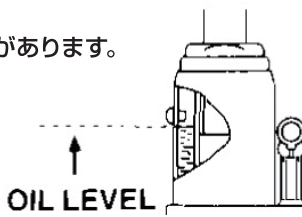
高級油圧ジャッキオイルのみをお使いください。複数の種類を混ぜないでください。ブレーキ液、アルコール、グリセリン、モーターオイル、タービンオイル、トランスミッションオイルを絶対に使わないでください。

不適切なオイルを使用すると、ジャッキの不具合を引き起こし、重量物の突然の損害を引き起こすおそれがあります。

※ ISO VG 10～32を推奨します。

オイル補充

1. ジャッキを重直になるようにセットし、受金を最低位まで押し下げ、注油キャップを外してください。
- 2 オイルを注油口の下位置まで補充し、注油キャップを元に戻してください。



オイルの交換

ジャッキを最高の状態に保ち、長期間使用できるように、一年毎のオイルの交換をおすすめします。

1. 受金を最低位まで下げ、注油キャップを取り外す。
2. ジャッキを倒し、余分な油液を排除する。※各自治体に従った廃棄処理を行ってください。
3. ジャッキを垂直にセットし、注油口の下部に当たるまで給油してください。給油後、注油キャップを取り付けてください。

潤滑する

錆を防止するために、またポンプがスムーズに作動するように、定期的に可動部（軸、ヒンジなど）に、潤滑油を差してください。

清掃する

定期的にポンプピストン、受金に錆びや腐蝕がないかを確認し、必要に応じて油に強い布で拭いてください。
※サンドペーパーや研磨材質の布を絶対に使わないでください。

空気抜き

リバースバルブを締め、受金を最高位まで上げる。注油キャップを外し、バルブを緩めてから、受金を最下位まで押し下げる。空気を抜いた給油キャップを取り付けてください。